

CASBEE®熊本《新築》【性能表示】

■ 建物概要					■ 外観
建物名称	ダイレックス荒尾店	階数	地上1F		
建設地	熊本県荒尾市荒尾市大島町3丁目4	構造	S造		
用途地域	第1種住居地域、法22条区域	平均居住人員	50 人		
気候区分	地域区分IV	年間使用時間	4,745 時間/年		
建物用途	物販店	評価の段階	実施設計段階評価		
竣工年	2014年9月 予定	評価の実施日	2014年4月1日		
敷地面積	5,961 m ²	作成者			
建築面積	2,329 m ²	確認日	2014年4月2日		
延床面積	2,233 m ²	確認者			

1 CASBEE評価結果

■ 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

環境品質 G

環境負荷 L

BEE = 0.6

BEE = 0.6

■ BEE(環境効率) = $\frac{Q(\text{環境品質})}{L(\text{環境負荷})}$

■ 環境効率評価基準

ランク	ランク表示	評価	判定値	
			BEE値	Q値
S	★★★★★	素晴らしい	3.0以上	50以上
A	★★★★★	大変良い	1.5以上3.0未満	—
B+	★★★★	良い	1.0以上1.5未満	—
B-	★★★	やや劣る	0.5以上1.0未満	—
C	★	劣る	0.5未満	—

■ ライフサイクルCO₂ 排出性能評価基準

判定値(排出率)	ランク表示
30%以下	☆☆☆☆☆
30%超60%以下	☆☆☆☆
60%超80%以下	☆☆☆
80%超100%以下	☆☆
100%超	☆

■ ライフサイクルCO₂排出性能(ランク表示)

排出率

94%

2 熊本県重点評価結果

■ 重点事項総合評価

評価点

70

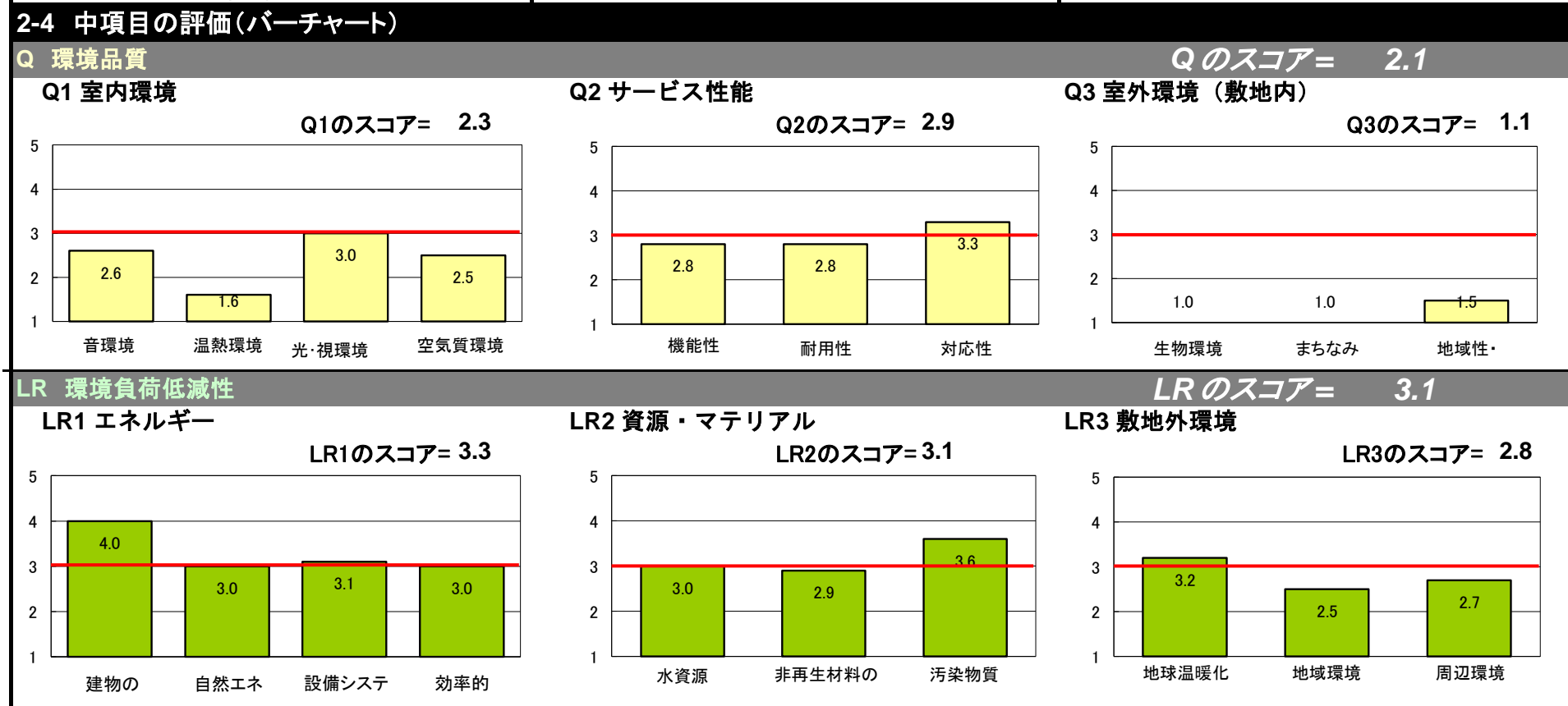
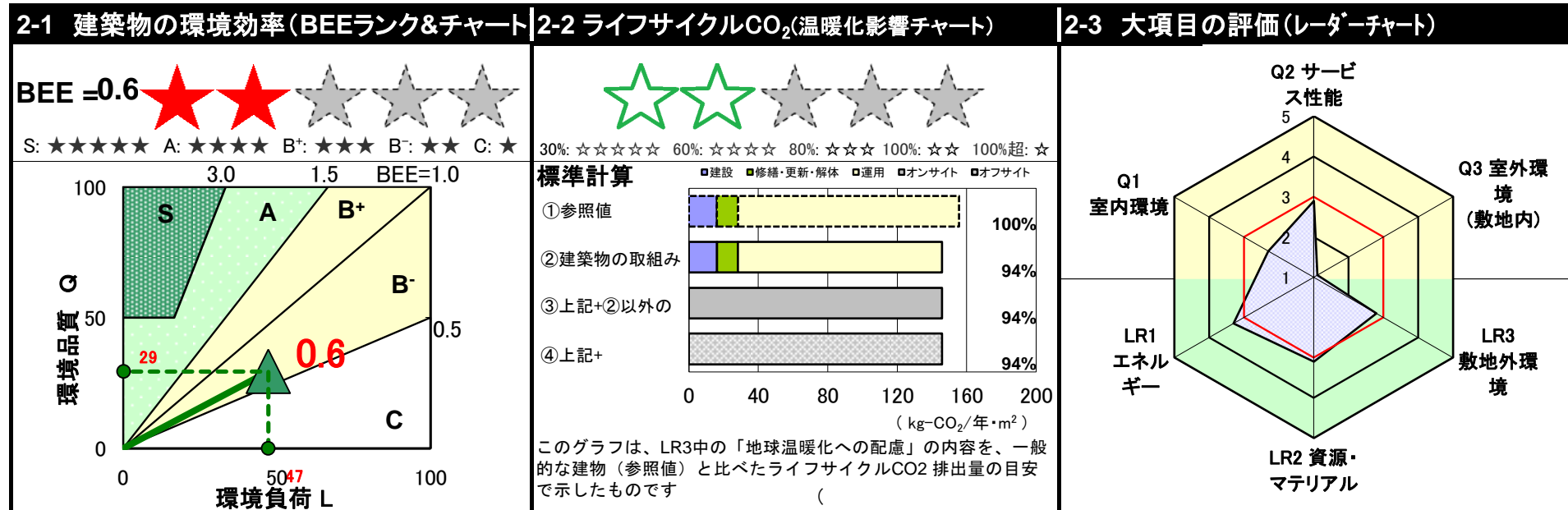
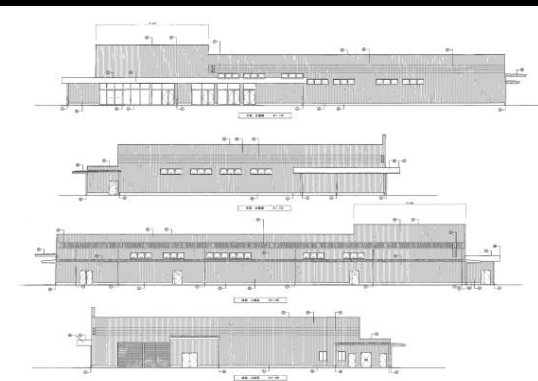
重点事項	評価点	熊本県重点評価基準
【重点事項1】 温室効果ガス排出量削減の推進	82.0	判定値(評価点) ランク表示
【重点事項2】 安全安心で暮らしやすい社会の実現	56.2	100点以上 ☆☆☆☆☆
【重点事項3】 県の地域資源の有効活用と保全	57.5	80点以上100点未満 ☆☆☆☆
【重点事項4】 循環型社会の実現	70.5	60点以上80点未満 ☆☆☆
		40点以上60点未満 ☆☆☆
		40点未満 ☆

※評価点は、100点以上が推奨です。

CASBEE® 熊本《新築》【評価結果】

■使用評価マニュアル: CASBEE-新築(簡易版)2010年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-NCb_2010(v.1.3)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	ダイレックス荒尾店	階数	地上1F
建設地	熊本県荒尾市荒尾市大島町3丁目	構造	S造
用途地域	第1種住居地域、法22条区域	平均居住人員	50人
気候区分	地域区分IV	年間使用時間	4,745時間/年
建物用途	物販店	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2014年9月 予定	評価の実施日	2014年4月1日
敷地面積	5,961 m ²	作成者	
建築面積	2,329 m ²	確認日	2014年4月2日
延床面積	2,233 m ²	確認者	



3 熊本県重点評価結果

重点事項総合評価		評価点 = 70
重点事項1: 温室効果ガス排出量削減の推進	重点事項2: 安全安心で暮らしやすい社会の実現	評価点 = 82 / 評価点 = 56
重点事項3: 県の地域資源の有効活用と保全	重点事項4: 循環型社会の実現	評価点 = 58 / 評価点 = 71

重点事項の評価(レーダーチャート)

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-新築(簡易版)2010年版
ダイレックス荒尾店

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル CASBEE-新築(簡易版)2010年版

■評価ソフト: CASBEE-NCb_2010(v.1.3)

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
Q 建築物の環境品質								2.1
Q1 室内環境			0.40					2.3
1 音環境		2.6	0.15	-	-			2.6
1.1 騒音		3.0	0.40	-	-			
1	室内騒音レベル	3.0	1.00	-	-			
2	設備騒音対策	-	-	-	-			
1.2 遮音		3.0	0.40	-	-			
1	開口部遮音性能	3.0	1.00	-	-			
2	界壁遮音性能	-	-	-	-			
3	界床遮音性能(軽量衝撃源)	-	-	-	-			
4	界床遮音性能(重量衝撃源)	-	-	-	-			
1.3 吸音		1.0	0.20	-	-			
		壁・天井に断熱材を使用						
2 温熱環境		1.6	0.35	-	-			1.6
2.1 室温制御		2.3	0.50	-	-			
1	室温	3.0	0.50	-	-			
2	負荷変動・追従制御性	-	-	-	-			
3	外皮性能	3.0	0.17	-	-			
4	ゾーン別制御性	1.0	0.33	-	-			
5	温度・湿度制御	-	-	-	-			
6	個別制御	-	-	-	-			
7	時間外空調に対する配慮	-	-	-	-			
8	監視システム	-	-	-	-			
2.2 湿度制御		1.0	0.20	-	-			
2.3 空調方式		1.0	0.30	-	-			
3 光・視環境		3.0	0.25	-	-			3.0
3.1 昼光利用		3.0	0.50	-	-			
1	昼光率	-	-	-	-			
2	方位別開口	-	-	-	-			
3	昼光利用設備	3.0	1.00	-	-			
3.2 グレア対策		-	-	-	-			
1	照明器具のグレア	-	-	-	-			
2	昼光制御	-	-	-	-			
3	映り込み対策	-	-	-	-			
3.3 照度		-	-	-	-			
3.4 照明制御		3.0	0.50	-	-			
4 空気質環境		2.5	0.25	-	-			2.5
4.1 発生源対策		3.0	0.50	-	-			
1	化学汚染物質	3.0	1.00	-	-			
2	アスベスト対策	-	-	-	-			
3	ダニ・カビ等	-	-	-	-			
4	レジオネラ対策	-	-	-	-			
4.2 換気		2.0	0.30	-	-			
1	換気量	3.0	0.50	-	-			
2	自然換気性能	-	-	-	-			
3	取り入れ外気への配慮	1.0	0.50	-	-			
4	給気計画	-	-	-	-			
4.3 運用管理		2.0	0.20	-	-			
1	CO ₂ の監視	1.0	0.50	-	-			
2	喫煙の制御	3.0	0.50	-	-			
Q2 サービス性能		-	0.30	-	-			2.9
1 機能性		2.8	0.40	-	-			2.8
1.1 機能性・使いやすさ		3.0	0.40	-	-			
1	広さ・収納性	-	-	-	-			
2	高度情報通信設備対応	-	-	-	-			
3	バリアフリー計画	3.0	1.00	-	-			
1.2 心理性・快適性		2.3	0.30	-	-			
1	広さ感・景観	5.0	0.33	-	-			
		売場天井高さを3.95mとし、開放感をもたせた。						
2	リフレッシュスペース	1.0	0.33	-	-			
3	内装計画	1.0	0.33	-	-			
1.3 維持管理		3.0	0.30	-	-			
1	維持管理に配慮した設計	4.0	0.50	-	-			
		量産品タイプの壁ビニルクロスを使用						
2	維持管理用機能の確保	2.0	0.50	-	-			
3	衛生管理業務	-	-	-	-			
2 耐用性・信頼性		2.8	0.31	-	-			2.8
2.1 耐震・免震		3.0	0.48	-	-			
1	耐震性	3.0	0.80	-	-			
2	免震・制振性能	3.0	0.20	-	-			
2.2 部品・部材の耐用年数		3.1	0.33	-	-			
1	躯体材料の耐用年数	3.0	0.23	-	-			
2	外壁仕上げ材の補修必要間隔	3.0	0.23	-	-			
3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔	3.0	0.09	-	-			
4	空調換気ダクトの更新必要間隔	3.0	0.08	-	-			
5	空調・給排水配管の更新必要間隔	4.0	0.15	-	-			
		給水管:SGP-VB、汚水管:VP、雑排水管:VP						
6	主要設備機器の更新必要間隔	3.0	0.23	-	-			

2.3 適切な更新			-	-	-	-
2.4 信頼性			2.2	0.19	-	-
1	空調・換気設備		1.0	0.20	-	-
2	給排水・衛生設備		3.0	0.20	-	-
3	電気設備		3.0	0.20	-	-
4	機械・配管支持方法		1.0	0.20	-	-
5	通信・情報設備		3.0	0.20	-	-
3 対応性・更新性			3.3	0.29	-	3.3
3.1 空間のゆとり			5.0	0.31	-	-
1	階高のゆとり	天井裏がコロを高くし、設備機器のメンテナンス等を容易にできるように	5.0	0.60	-	-
2	空間の形状・自由さ		5.0	0.40	-	-
3.2 荷重のゆとり			2.0	0.31	-	-
3.3 設備の更新性			3.0	0.38	-	-
1	空調配管の更新性		3.0	0.17	-	-
2	給排水管の更新性		3.0	0.17	-	-
3	電気配線の更新性		3.0	0.11	-	-
4	通信配線の更新性		3.0	0.11	-	-
5	設備機器の更新性		3.0	0.22	-	-
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.22	-	-
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	1.1
1 生物環境の保全と創出			1.0	0.30	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮			1.0	0.40	-	1.0
3 地域性・アメニティへの配慮			1.5	0.30	-	1.5
3.1	地域性への配慮、快適性の向上		1.0	0.50	-	-
3.2	敷地内温熱環境の向上		2.0	0.50	-	-
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	3.1
LR1 エネルギー			-	0.40	-	3.3
1 建物の熱負荷抑制		PAL 144ポイント	4.0	0.30	-	4.0
2 自然エネルギー利用			3.0	0.20	-	3.0
2.1	自然エネルギーの直接利用		3.0	0.50	-	-
2.2	自然エネルギーの変換利用		3.0	0.50	-	-
3 設備システムの高効率化		[ERR値]6.6%	3.1	0.30	-	3.1
集合住宅以外の評価(ERRIによる評価)		ERR=6.6%	3.0		-	
集合住宅の評価			3.0		-	
4 効率的運用			3.0	0.20	-	3.0
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	3.1
1 水資源保護			3.0	0.15	-	3.0
1.1 節水			3.0	0.40	-	-
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.67	-	-
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.33	-	-
2 非再生性資源の使用量削減			2.9	0.63	-	2.9
2.1	材料使用量の削減		2.0	0.07	-	-
2.2	既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.24	-	-
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.20	-	-
2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	-	1.0	0.20	-	-
2.5	持続可能な森林から産出された木材		2.0	0.05	-	-
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み		5.0	0.24	-	-
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.6	0.22	-	3.6
3.1 有害物質を含まない材料の使用			5.0	0.32	-	-
3.2 フロン・ハロンの回避			3.0	0.68	-	-
1	消火剤		-	-	-	-
2	発泡剤(断熱材等)		-	-	-	-
3	冷媒		3.0	1.00	-	-
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	2.8
1 地球温暖化への配慮		照明をLED照明とし、消費電力を軽減した。	3.2	0.33	-	3.2
2 地域環境への配慮			2.5	0.33	-	2.5
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25	-	-
2.2 温熱環境悪化の改善			2.0	0.50	-	-
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.0	0.25	-	-
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-
3	交通負荷抑制		5.0	0.25	-	-
4	廃棄物処理負荷抑制		1.0	0.25	-	-
3 周辺環境への配慮			2.7	0.33	-	2.7
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-
1	騒音		3.0	0.50	-	-
2	振動		3.0	0.50	-	-
3	悪臭		-	-	-	-
3.2 風害・砂塵・日照障害の抑制			3.0	0.40	-	-
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-
2	砂塵の抑制		1.0	-	-	-
3	日照障害の抑制		3.0	0.30	-	-
3.3 光害の抑制			1.7	0.20	-	-
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		2.0	0.70	-	-
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		1.0	0.30	-	-

CASBEE® 熊本《新築》【配慮事項】

4 設計上の配慮事項

総合

建物を前面道路から離れた位置に計画し、圧迫感等が少なくなるように配慮した。

Q1 室内環境

売場の天井高さを3.95mと高くすることでゆとりのある空間計画とした。

Q2 サービス性能

建物内の客利用部分はバリアフリーとし、安全が図れる計画とした。

Q3 室外環境（敷地内）

アスファルト舗装仕上とし、滑りにくい仕様とした。また、車いす専用駐車場を建物出入口に最も近い位置に計画した。

LR1 エネルギー

特になし

LR2 資源・マテリアル

特になし

LR3 敷地外環境

特になし

その他

特になし

熊本県重点評価結果スコアシート

実施設計段階

建物名称 **ダイレックス荒尾店**

■評価ソフト: CASBEE-NCb_2010(v1.3)_kmt2011(v1.0)

■使用評価マニュアル: CASBEE熊本《新築》2011年版

★熊本県重点評価結果				総合評価点	69.6	
重点事項				評価点	重点事項 重み係数	評価配点
重点項目(配慮項目)	スコア	重み 係数				
① 温室効果ガス排出量削減の推進				82	0.40	32.80
Q1-2.1.3	外皮性能	3.0	0.08			
Q1-3.1.3	昼光利用設備	3.0	0.07			
Q1-3.2.2	昼光制御	0.0	0.00			
LR1-1	建物の熱負荷抑制	4.0	0.15			
LR1-2	自然エネルギー利用	3.0	0.20			
LR1-3	設備システムの高効率化	3.1	0.30			
LR2-2.1	材料使用量の削減	2.0	0.10			
LR3-2.3.3	交通負荷抑制	5.0	0.10			
② 安全安心で暮らしやすい社会の実現				56.2	0.20	11.24
Q2-1.1.3	バリアフリー計画	3.0	0.25			
Q2-2.1.1	耐震性	3.0	0.25			
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.15			
Q3-3	地域性・アメニティへの配慮	1.5	0.20			
LR3-2.2	温熱環境悪化の改善	2.0	0.15			
③ 県の地域資源の有効活用と保全				57.5	0.20	11.50
Q3-2	まちなみ・景観への配慮	1.0	0.20			
LR2-1.1	節水	3.0	0.30			
LR2-1.2.1	雨水利用システム導入	3.0	0.20			
LR2-2.5	持続可能な森林から産出された木材	2.0	0.30			
④ 循環型社会の実現				70.5	0.20	14.10
Q2-2.2	部品・部材の耐用年数	3.1	0.30			
Q2-3	対応性・更新性	3.3	0.30			
LR2-2.2	既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.10			
LR2-2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			
LR2-2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	1.0	0.15			

■評価点算出式

評価点は、以下の方法により算出しています。

◆総合評価結果

総合評価点 = (各重点事項の評価点 × 各重点事項の重み係数) の総和
 ※重み係数の総和は、「1」であること。

◆各重点事項(①～④の項目)

評価点 = (各重点項目のスコア × 各重点項目の重み係数) の総和 × (5/4) × 20
 ※重み係数の総和は、「1」であること。

※(5/4) × 20 : スコア4点を評価点100点に変換するスケーリング定数